

「賀古駅家、発掘ものがたり」3<どこをどう掘る？>

自由に発掘調査できるといっても、発掘する土地の持ち主の承諾がなければ実現できません。また、発掘しようにも上に建物が建てられていたり、道路が通っていたりすれば、物理的に発掘はできません。そして、何よりもどこを発掘すれば最小限の労力（費用）で最大限の効果を上げることができるのか、見極める「目」が必要になります。



古大内遺跡（＝賀古駅家）の看板

このような点で、賀古駅家は多くの研究が蓄積されており、付近を通る古代山陽道と共におおよその位置が推定されていました。さらに、開発を免れて畑の状態で地下の遺跡が保存されていると思われる場所もあり、少ない費用で最大の効果を上げるためには絶好の遺跡でありました。

さらにさらに、土地を所有されておられる方も地域の歴史を愛する方でしたので、発掘調査のお話を相談させていただいたところ、二つ返事で引き受けていただきました。

さて、いよいよ条件は全て整いました。あとはどこをどう掘るのか、調査担当者の力量（それと勘）次第です。

いよいよ研究史を振り返り、地図を広げて調査計画を立てるときがやってきました。